

北海道ジュニアボート大会（記録会）について

本大会は 新型コロナの影響で、ボート競技における各団体の活動の制限や各種大会（インターハイや国体等）が中止となる中で、選手のモチベーション向上及び試合形式の経験を目的として開催するものです。











本大会では、各種目において次により総合順位を決定し、第1位のクルーに北海道知事杯及び賞状を授与します。2位、3位のクルーには大会主催者より賞状を授与します。

各種目ごとの総合順位は、全レース（1日目及び2日目）のクルーの1,000m フィニッシュタイムを上位から並べ、最高タイムを出したクルーを第1位とし、以下順位を決定します。

レースに当たっての審判上の注意

1. 健康管理
 - ・健康管理は各自、各クルーの責任です。特に寒さ対策や水分補給は十分に行うこと。気分が悪いなどの異常を感じた時は近くの審判か役員に申し出ること。
2. 事故防止と回漕時の注意
 - ・クルーは出艇の前に航行ルールを確認し、水上では、事故に注意すること。
 - ・回漕クルーは、競漕水域の外側で、100m 以上手前からレースが通過するまで止まること（違反して警告を受けた場合、不正スタート一回で除外となる）。
 - ・審判艇や救助艇からの指示には必ず従うこと。
3. ユニフォーム、ブレードカラーについて
 - ・統一を原則とする。今大会事情により統一できない場合は競漕委員会へ申し出ること。
4. ライフジャケット
 - ・高校生の漕手・舵手は、ライフジャケットの装着を義務付ける。
5. 舵手の計量
 - ・出漕日毎に、その日の最初に出るレースの定刻二時間前から一時間前までに、本部付近の計量所で行う。男子=55kg、女子=50kg 以上に満たない場合は規定の重量を満たすために、最大限 15kg のデッドウェイトを舵手の側に置かなければならない。
6. 無線通信機器
 - ・レースでは、携帯電話等含め無線通信機器を艇に持ち込んではいならない。
7. 艇の故障とレース時刻の変更
 - ・クルーは発艇員が指定したレーンを使用し、発艇定刻2分前までにステッキボートに着かなければならない。艇の故障などで定刻に間に合わないときは、最寄りの審判員に申し出て指示を受けること。正当な理由があるとき、原則そのレースを含め2レース分待ちます。
8. 発艇号令について
 - ・別紙のスタート手順による。風が強い場合クイックスタートを行う場合がある。
9. レース中の注意
 - ・各艇は自己のレーンを進行し、他のレーンを侵害したり他艇を妨害してはならない。
 - ・主審は、他艇を妨害する危険がある場合、クルー名を呼び白旗を掲げ、警告を行う。
10. レース中の落水
 - ・今大会では、落水者は即救助とする。落水時に選手が手を使わずすぐにボートから離脱できるように、ヒールロープ（かかとひも）等を装備し、靴ひもは締めすぎないこと。
11. レース終了時
 - ・レースの成立は主審の白旗で示されます。レースに対する異議は、主審が白旗を揚げる前に挙手をして申し出ること。赤旗を揚げたときはレースに問題があった場合なので、指示があるまでその場に待機すること。
12. 各種の届出
 - ・メンバー変更、棄権は、シート変更は、競漕委員会へ申し出ること。ブレード不統一・ユニフォーム不統一につきも、競漕委員会へ申告すること。

日本ボート協会競漕規則に基づく発艇(スタート)手順

	状況	発艇員の動作	発艇員の号令	説明
①	前のレース発艇後、あるいは午前、午後の最初のレースなどでコース(発艇区域)に入れる状況のとき 【例: 8分前に小樽桜陽(3レーン)がコース(発艇区域)に入ろうとしている】		「小樽桜陽、Lane Three(レーン・スリー)、Eight minutes(エイト・ミニッツ)」	クルーへのコース内進入許可とレーンの割り当て。発艇までの残り時間。
②	発艇位置にレース No. の表示がない場合など		(必要に応じて、レース No. 種目、組をコールする)	
③	スタート 5 分前		「Five minutes」(ファイブ・ミニッツ)	定刻 5 分前から分読みが始まる
④	スタート 4 分前		「Four minutes」(フォー・ミニッツ)	
⑤	スタート 3 分前		「Three minutes」(スリー・ミニッツ)	
⑥	スタート 2 分前		「Two minutes」(トゥー・ミニッツ)	クルーは 2 分前までに発艇位置に着かなければならない。また、服装の統一、装備の点検等を行い、いつでもスタートできるようにすること。
⑦	ロールコール(クルー名が呼ばれる)		例 「網走南ヶ丘」	※ 1
			「釧路工業」	
			「小樽桜陽」	
			「函館水産」	
⑧	ロールコールの後、明瞭な間を置いて		「Attention」(アテンション)	※ 2
⑨	「Attention」(アテンション)の号令後、発艇員の赤旗(発艇旗)が掲げられる。			
⑩	「Go」(ゴー)の発声と同時に、発艇旗が勢いよく振り下ろされる。		「Go」(ゴー)	発艇の合図

- 1 コンディションが悪い場合などロールコールを省略したクイックスタートが行われる。
その場合の号令は:「Quick Start」(クイックスタート)→「Attention」(アテンション)→「Go」(ゴー)
- 2 クルーからの「艇の方向が定まっていない」等のいかなる発艇猶予も、認められません。
ロールコール終了時点で艇の方向を定め、いつでもスタートできるようにすることはクルーの責任です。